



市埋蔵文化財センター
☎ 23-8020 19
DOKI DOKI
たいむとらべらー

装いあれこれ 「土製耳飾り」の流行

女性がネックレスやイヤリング・ピアスをつけるのは、今やごく普通の時代です。また、ピアスをつけた若い男性を見かけることも、珍しくはありません。現代の私たちがアクセサリーを身につける一番多い理由は、やはり「おしゃれ」でしょう。

縄文時代の主なアクセサリーの中で、最も多いのは土製の耳飾りで、その出土は東日本に集中しています。

今まで日本各地の遺跡から出土した耳飾りは、直径が12・8センチから0・6センチと大きさがまちまちです。これらの耳飾りは、現在のピアスのようにつけるタイプなので、直径の大きなものであ

れば、耳たぶに10センチ以上の穴をあけていたことになり、私たちを驚かせます。(だって、ピアスの穴なんて、直径1ミミくらいなんですよ！)

その中でも群馬県桐生市で出土した直径約9センチ、耳たぶに直接あたる中央部分の直径が7・7センチのものは、片側に浮き彫りのような見事な細工が施されています。中には細工を施したあと真つ赤に丹塗りしたものも見られます。

でも、そのような派手なものばかりが作られていたわけではありません。浄法寺の上杉沢遺跡から出土した耳飾りは、全体に赤く塗られた痕跡が残っています。形はいたってシンプルなものです。

さてさてこれらの土製耳飾り、一体どんなときにつけていたのでしょうか。誕生日？お祭り？それとも結婚式？でも、10センチもある大きなものは、つけているあいだ中、我慢大会のようですね……



古代の人たちは痛みを耐えながらおしゃれをしていたようです

こみゆにTeaたいむ

28 秋目

二戸市文化祭

お祭りシーズンも一段落し、朝夕めっきり涼しくなってきました。芸術の秋、食欲の秋の到来です。今年度も市内の各会場で「二戸市文化祭」が開催されます。

文化祭という言葉を分解してみると文化＋祭りです。そして地域の文化というものは、私たちの住んでいる人びとの暮らしと自然が織りなす「風土」「風景」などから生み出される固有の魅力を持ったものです。

もしかしたら、私達自身では気が付かない何気ないものでも、よそから見れば魅力に溢れているものも数多くあるのではないのでしょうか。それに今一度気付いてみよう、再発見してみようという意義をもったお祭り、それが文化祭だと思います。もちろん一人ひとりの内に眠っている優れた芸術の才能の発表の場でもあることは言うまでもありません。

展示部門では、絵画、写真、生け花、水石、盆栽、菊花、書道、ちぎり絵、水墨画など多彩な作品の数々が鑑賞できます。また、お茶会も開催され優雅なひと

ときが楽しめます。ステージ部門では、合唱、吹奏楽、演劇などが鑑賞できます。

催しの詳しい内容は10月15日号に掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

また、10月11日(日)午後1時より市民文化会館大ホールで、ステージ部門の一部である「日本文化のつどい」が開催されます。若柳千景社中と若柳蔦和社中による「日本舞踊」および船場秀子社中による「箏曲」が鑑賞できます。お問い合わせは、若柳千景 ☎ 27-2366 までお願いします。



今年もたくさんの自慢作品が多数展示されます。ぜひ足をお運びください

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線652)まで